

本人のニーズを踏まえた上で少しずつ練習してみよう！

インクルーシブ教育研究者・博士（障害科学） 野口晃菜



今回のてこぼこポン！のテーマは「たくさんの人と話をする発明品」です。

ぼこすけの友達ダイチ、サクラ、サキを交えて盛り上がり話をしていますが、でこりんは話すタイミングをうまくつかめず、すでに終わった話題について話します。すると、ぼこすけから「その話はもう終わったよ」と指摘されてしまい、でこりんはへこんでしまいます。でこりんは人数が多いとどう話に入って良いかわからなくなってしまうようです。

でこりんのように、少人数でお話するのは得意だけど、人数が多くなると苦手な子どもはたくさんいます。**人数が多いと、その分把握しなければならない情報が増えます。**でこりんのように、それぞれが話している内容を把握しながら、次〇〇が話すのかな、私も話したいな、とタイミングをうかがっているとどんどん話が先に進んでしまうこともあります。そのほかにも、4-5人以上で話していると、話題が二つに分かれる時もあります。その際に、どちらの話題に入りたいのかわからなくなることもあります。また、初めて話す人やあまり話したことのない人がいると、「なんて言ったらいいのかな」「これを言ったらどう思うかな」などと考えてしまいがちな子どもも、人数が多いとその分たくさんの人のことを考えてしまうので、話せなくなったり、過度に疲れてしまったりもしてしまいます。

そんなでこりんが今回発明したのはおしゃべりをサポートしてくれる「しゃべりタイ」。まずは、たくさんしゃべるのではなく、相手の話リアクションをすることをアドバイスしてくれます。「話に入りたいけど入れない」という時にまずは相手の話に対して大きくリアクションするのはハードルが低くおすすめです。リアクションのバリエーションもいくつか知る機会があるとよいでしょう。

その次のステップとしては、「しゃべりタイ」はぼこすけがでこりに話をふるように伝えます。ぼこすけはそれを踏まえて、「何味を食べてみたい？」とでこりに話をふります。周りの子がたくさんしゃべっていると「自分はいいや…」と話すことをあきらめてしまったりする子もいます。そのように、事前に仲の良い人に「しゃべるタイミングをつかむことが苦手だから話を振ってほしい」と伝えておくのもよい工夫です。

また、でこりんは、自分がよく知らない話題の時にどのようにリアクションをとったら良いかわからないようです。その際には、リアクションをしつつ、自分が思っていることをそのまま伝えてもOK、という助言を受けます。自分が知らない話題になると「会話についていけない」と焦ってしまう子もいます。そういう時には、どのようなリアクションをとるか？を事前に考えて練習しておくことをおすすめします。

人数が多い中での雑談は、とても難しいです。何も練習しないでも自然と雑談ができる人もいれば、練習が必要な人もいます。本人が大人数で話さなくていい、という場合はそのような場面を避ける方法もあります。本人に大人数で話したいというニーズがある場合は、困る場面を事前に想定して、リアクションを練習したり、タイミングをつかむ練習をしてみたりするのが良いでしょう。また、まずは間に大人や支援者が入り、徐々に一人で話せるようにサポートしていくのも良いでしょう。